



名古屋NGOセンター ● 会報
NGO=Non Governmental Organization

vol.121
2020.5 (年2回発行)

さんぐりあ

名古屋NGOセンターの主な活動

- ① 地域及び全国的NGOのネットワーク作り
- ② NGOスタッフやボランティアのためのセミナー実施
- ③ 一般市民へのNGO情報の発信
- ④ 地球市民教育のためのセミナー、フォーラム等の実施
- ⑤ 自治体、及び関係機関への提言・協力活動

さんぐりあとは、赤ワインにいろいろな果実を漬け込んでつくる飲み物です。
これを世界にたとえ、さまざまな果実(人々)の個性を損なわず、素晴らしいハーモニーが奏でられるようにと願いを込めて、名付けられました。



特集1 ペシャワール会 中村哲医師の功績

ペシャワール会の中村哲医師の突然の訃報には、国際協力に関わる私たちに大きな衝撃を与えました。今号は、中村医師の功績を振り返るとともに、名古屋で開催された「送る会」のレポートや、ペシャワール会名古屋からの寄稿を掲載しました。

特集2 韓国のフェアトレード事情

新連載 私たちのスタディツアー紹介します!

公益財団法人 アジア保健研修所(AHI)

ペシャワール会 中村哲医師の功績

アフガニスタン40年の軌跡

中村哲医師のペシャワールへの派遣

ペシャワール会のアフガニスタン支援活動は、1983年に中村哲医師がペシャワールのミッション病院に派遣されることから始まりました。派遣先の病院においてハンセン病の治療に従事した中村哲医師は、ハンセン病多発地域であるアフガニスタンの山村無医地区に3つの診療所を開設、診療を行うとともに、ペシャワールに70床の病院を自前で開設しパキスタン・アフガニスタン両国にまたがり活動することとなります。



より枯れた灌漑用水路の復旧や灌漑用井戸を手掛けました。しかし2001年にアメリカ同時多発テロ事件が起こり、米英軍によるアフガニスタン空爆が行われると作業は一時中断となり、首都カブールで食料配給を行うこととなります。



用水路の掘削へ

2003年3月、かんばつにより荒廃した農村を回復させ、難民化した農民が自給自足の暮らしができるよう、農業復興への方針を固めました。「緑の大地計画」と称したこの計画は、①試験農場(乾燥に強い作付けの研究)、②飲料水源事業(2000か所の井戸の増設・復旧)、③灌漑用水事業(大河川クナール河から取水しガンバリ砂漠まで約25kmの用水路建設)が骨子となります。2007年4月、第1期工事であるジャリババから約13kmの用水路が開通し1200ヘクタールを超える広大な田園が復活しました。2009年8月、シェイワ郡全体(3500ヘクタール)とガンバリ砂漠を潤す総延長約24.8kmの用水路が完成し、難民となっていた十数万人が帰農しました。

PMS水源対策事務所の開設

診療を続けていく中で、十分な食料と清潔な飲料水があれば防げる病気が多いことが分かり、清潔な飲料水の確保に乗り出します。2000年にアフガニスタンのジャララバードにPMS(ペシャワール会の現地事業体)水源対策事務所を設け井戸掘り事業を展開し、枯れた井戸の修復を中心に約1600か所の井戸掘りを行いました。同時に飲料水だけでなくかんばつに

取水方法の確立

用水路完成とともに、同様にかんばつの被害を受けている近隣地域の水の安定供給への取り組みが始まりました。クナール河からいかに用水路へ水を取り入れるか、取水システムの確立に向け、^{しゅすいせき}取水堰・用水路の新設、改良工事が行われ、PMS方式取水堰の標準設計を確立するに至りました。2018年からは取水方式の普及のため訓練所での職業訓練も始まり、安定した水の供給により穀倉地帯として復活した農村へ帰還した農民は約100万~150万人に上りました。



写真提供:ペシャワール会

(担当:久田)

中村哲医師を送る会 レポート

ペシャワール会名古屋と名古屋NGOセンターの共催で、2月8日に伏見ライフプラザ5階の鯉城ホールにおいて「中村哲医師を送る会」が開催されました。(780人収容)

当日は、ホールも満席になるほどの人が席を埋め、中村医師の活動がいかに多くの人の心の糧になっていたか、また、多くの人に影響を与えていたのかがうかがえました。

会の開始前に、中村医師の活動を伝えるDVDが上映され、中村医師が現地の人々の視点で活動されてきたことをうかがい知ることができました。皮肉なことに、銃撃報道によって改めて、中村医師の活動がいかに現地の人々にとって重要であったか、彼らがいかに中村医師を信頼し共に活動してきたかを多くの日本人は知ったわけですが、会では、名古屋で中村医師の活動を支えてきた方々、中村医師とのかかわりを通じて支援の輪を広げていった方々、中村医師の講演を通じて世界に目を向ける目が養われた方々の、それぞれの中村医師への思いが伝えられました。どの方も、中村医師の厳しい中にある気さくな人柄を偲ばれ、その活動を引き継いでいくのだという思いを強く訴えられていました。かかわり深い皆さんのお話の後は演奏



会で、中村医師の活動を偲びました。

最後はスクリーンに中村医師の写真が大写しにされた舞台上に献花台が設けられ、参加者一人一人が中村医師の冥福を祈りつつ、花をささげて会の終了となりました。会が終了しても立ち去る人が少なく、参加者それぞれが中村医師の思い出を語り合い、大切な人を失った痛みを分かち合っているようでした。

(担当:貝谷)

「平和を」哲さんの意志を引き継ぐ

ペシャワール会名古屋 五井泰弘

アフガニスタンで36年余にわたり活動を行っていた中村哲医師(現地代表)が昨年(2019年)12月4日、アフガン東部ジャラバード市内で武装勢力の銃撃を受け亡くなりました。此の時、現地PMS職員(平和医療団体)1名と護衛4名のアフガニスタン人も犠牲になりました。偉大な人を失い残念でなりません。事件の一報は「一命はとりとめた」でしたので一時は安堵し、又、治安は悪化しているものの一定のセキュリティをして活動していて、何よりも現地の村々の人々から厚い信頼を受けていたので「守られている」と私も思っていたので、その衝撃は大変大きなものでした。

中村哲さんは1984年パキスタンのペシャワールで難民支援、ハンセン病根絶を担い赴任、以来パキスタンとアフガニスタンで医療事業に始まり、井戸掘りで飲み水確保、更に荒れ果てた土地を「緑の大地」に変える用水路事業に着手、農業復興する計画を今日まで進めてきました。その間、米軍の空爆下での食糧配給や用水路の洪水被害など幾多な困難に直面するも中村さんの沈着冷静な判断と強い信念で切り抜けてきました。常々「3度のご飯が食べれて、家族と一緒に穏やかに暮らせること」だと素朴で当たり前語る一方で、水と農業も「全て医療

の範囲」と言い切り、それを実行に移す思想は並大抵ではありません。中村さんだからこそできた事業だと言えます。

私はパキスタンとアフガニスタンに3回行き、中村さんの傍で多くのことを見て、学ばさせて頂きました。考えの奥深さ、物に動じない信念、困難を乗り越える強さ、独学で専門知識を得る。また、花や蝶を愛する優しさ等、見事としか言えません。私の財産として自分なりに今後生かしていくつもりです。

ペシャワール会名古屋は1996年に支部(本部福岡)として発足、24年になります。活動は①会報の発送作業(年4回発行、東海・北信越10県)、②講演会、③写真展、④事務局会議(不定期・15~20名)など適時に行っています。

ペシャワール会は今後、1.事業のすべてを継続します。2.中村さんが望んでいた希望や想いも引き継いでいきます。

12月11日中村哲医師葬儀(福岡)、1月25日お別れの会(福岡)、2月1日しのぶ会(東京)、そして2月8日の名古屋の送る会に予想を超える方々がお出掛け下さいました。厚く御礼申し上げます。多くの皆さんから寄せられた中村さんを惜しむ声と励ましをしっかりと受け止め、前に進んでいきます。引き続きご支援下さい。



韓国のフェアトレード事情

日本国内でフェアトレード商品を見ることは珍しくなくなってきましたが、他の国でフェアトレードはどの程度普及しているのでしょうか？2019年の年末に韓国・ソウル市のフェアトレードショップを巡ってきました。ソウル市は2018年7月にフェアトレードタウンの認定を受けたばかり。人口一千万人以上の都市が認定を受けるのは世界で初めてだったそう。その現場取材すると、韓国にはフェアトレードが急速に浸透しつつあることが感じられました。

そこで今号のさんぐりあでは、意外と知らなかった韓国のフェアトレード事情とソウル市内のおすすめのショップをご紹介します！



★人口一千万のフェアトレードタウン・ソウル市

韓国語でフェアトレードは「公正な貿易」と呼ばれ、韓国へは2000年頃に市民団体が紹介して知られるようになった。ソウル市がフェアトレードタウン認定に向けて動き始めたのは2012年のこと。「世界フェアトレードデー」の韓国フェスティバルで「フェアトレードタウン・ソウル」宣言文を発表し、同年11月フェアトレード支援決議案と条例を議決した。フェアトレードタウンとして認定されるには、フェアトレードタウンズ・インターナショナルが提示する5つの基準をクリアしなければならない(表)。これらを満たすため、ソウル市は人口2万5千人ごとに1店舗、つまり400近い販売店を確保したり、職場でのフェアトレード製品の使用を推奨し、キャンペーンや教育なども重ねてきた。「地球村」(次ページ参照)の統括マネージャーのイさんによれば「人口が多いソウルで店の数を確保するのが大変で、認定に時間がかかった」とのこと。



写真1

1. 地方議会による支持とフェアトレード製品の使用
2. 地域のお店やカフェなどでフェアトレード製品を利用しやすいこと
3. 地域の職場やコミュニティ組織(宗教団体、学校、大学など)内でフェアトレード製品が使用されていること
4. メディア報道やキャンペーンへの支援を引きつけていること
5. フェアトレードタウンの地位に対して継続的に責任をもつ団体が組織されること

フェアトレードタウン認定条件
(フェアトレードタウンズ・インターナショナルHPより)

2018年7月にソウル市で行われたフェアトレードタウン認定式典で、社会運動家として活躍したソウル市長パク・ウォンスン氏は「資本主義の世の中でフェアトレードは社会問題解決のための重要な手段」とスピーチを行い、今後もますますエシカルな消費を市民に浸透させることを宣言した。今回インタビューした複数のフェアトレード関係者が、「市長が先導して取り組んできたことによってフェアトレードの認知度が上がっている」と話していたのが印象的だった。

韓国ではソウル市のほかにも河南市、富川市、仁川市、華城市など韓国北東部の京畿道の都市がフェアトレードタウンとして認定されているほか、いくつかの高校や大学、教会などもフェアトレードを推進する団体として認められている。

★ソウル市内にはおしゃれなフェアトレードショップがたくさん！

今回のソウル訪問では3日間で7つのフェアトレードショップを巡ることができた。どのお店も外観・内装ともにスタイリッシュで商品も魅力的なものも多く、お客さんの中にはフェアトレードの製品だと知らずに買う人も多いとのこと。そんなお客さんに対してフェアトレードについて説明したり、お店のディスプレイで生産者について展示したりして、フェアトレードの認知度を上げる努力をしているようだ。また出店場所も重要だそうで、「地球村」のイさんは「お店が市庁の地下にあってシニア層から学生など多様な人が来店するため、フェアトレードの認知度を上げるのに貢献している」、また「美しいコーヒー」のカンさんは「人がたくさん通る場所に出店したり価格を抑えるなど努力をしている」と話してくれた。



写真2

写真1: 城北区公正貿易センター、通称「フェアラウンド」。ソウル市城北区のフェアトレードを普及している行政施設。
写真2: ソウル市庁の地下にある「地球村」。フェアトレードについて学ぶことができる。

フェアトレードショップめぐり@韓国・ソウル



ソウル市のフェアトレードショップ、代表的な3店舗を紹介します！

地球村 EARTH VILLAGE(チグマウル)

ソウル市庁の地下の一角にあるお店。韓国のフェアトレード団体や企業で作る製品の販売ショップとカフェスペースを運営しています。カフェスペースでは、コーヒーだけでなく紅茶やフレーバーティー、ちょっとしたお菓子もあります。当初はフェアトレードに関心がある方や素材にこだわりがある方がよく来ていたそうですが、フェアトレードのことを知らずに来ていたシニア層の中にも製品を気に入って常連になってくれた人もいるとのこと。お店やカフェの運営以外に、フェアトレードについてワークショップを行ったり、学生の研修の受け入れやイベントを行うなど、フェアトレードの取り組みを発信している学びの場ともなっています。また市庁で開かれるミーティングへのケータリングも行なっています。



HP: <https://blog.naver.com/jigoomaeul>
Address: 110 Sejong-daero, Myeong-dong, Jung-gu, Seoul
地下鉄1・2号線「市庁」駅四番出口すぐ

g:ru (グル)

韓国のフェアトレードショップの草分け的なお店。伝統的な町並みの中に個性的なカフェやレストランが並ぶ地域・西村(ソチョン)の一角にあります。外観は韓国の伝統的な家屋である韓屋(ハノク)のようでオシャレな作り。店内は名古屋の風'sさんに似たオーガニックなやさしい雰囲気があります。販売されている製品は主に、服や服飾小物、バッグ、化粧品など。服製品が多い理由として「服は作る工程が多いので関わる人が多く、雇用が生まれます。また伝統的な製法を残していきたいからです」と答えてくれたのは創始者のお姉さんで店員のイ・ソヨンさん。また、こちらのお店は、日本のネパリバザー口とも深く関わりがあるお店でもあります。



HP: <https://www.fairtradegru.com/>
Address: 58 Jahamun-ro 7-gil, Tongin-dong Jongno-gu, Seoul
地下鉄3号線「景福宮」駅1番出口徒歩15分

美しいコーヒー(アルムダウンコピ)景福宮店

地下鉄「景福宮」駅を出てすぐ、オフィスビルの1階にあります。開放的な店内には、テーブル・ソファ席のほかに生産者の写真、コーヒー産地の紹介、自社製品の展示販売、ちょっとした会議スペースもあります。マネージャーのカン・ギテさんは「オフィス街に店舗を構えたのはフェアトレードをもっと身近に感じてもらい、コーヒーショップのひとつとして選んでもらいたいから」と語ります。お店ではコーヒー講座なども行っています。

美しいコーヒーではイートインだけではなくコーヒー、チョコレートなどの製品を販売しています。そのひとつに女性農家に特化した製品ライン「SOLVE」があります。女性たちの自立に向けた取り組みとして始めたもので、女性農家で作るコーヒー豆を販売しています。お店を訪ねた際にカフェラテを注文したのですが、とても飲みやすく、こんなに美味しいカフェラテは初めてでした！



HP: <http://beautifulcoffee.com/>
Address: 80 Jeokseon-dong, Jongno-gu, Seoul
地下鉄3号線「景福宮」6番出口すぐ

(担当:加藤、フェアビーンズ店長 加古)

私たちのスタディツアー 紹介します！

第1回 公益財団法人 アジア保健研修所(AHI)

AHIでボランティアをしながら、2年前にスタディツアーに参加。桜井が紹介いたします。

特徴は何？(観光との違いは？)

AHIのスタディツアーは40年の実績があります。過去にAHIで研修を終えた元研修生の団体(NGO)が受け入れを担当してくれるので、その現場に身を置いて生活体験しながら学べます。元研修生と村人の信頼関係があるからこそ実現できる農村ホームステイ。観光では訪れることのないリアルな生活エリアです。ツアー期間中は現地NGOのコーディネートにより、一軒に一人のホームステイを体験しながら、病院や学校、寺院などを見て回ります。

毎年「生きる力をつかむ旅」と題してツアーを開催し、現地での出会いを通じて参加者がどんな力をつかむのか考える機会にもなります。参加者が主体の参加型ツアー。(お客さんじゃない!)話し合いや意見交換で視野が広がり考えが深まります。

出発前に充実した説明会や準備会

年明けすぐ、中日新聞にツアー募集による説明会開催の記事が掲載されていました。説明会は同じ内容で2回。私もツアー前の説明会には参加しました。これまでの参加者3名(年齢は学生さんから退職者までそれぞれ)による体験談と質問コーナーがあり、写真を通してより現地の様子が伝わりました。ツアー先が途上国なのでこの時点で不安はたくさんあります。現地で生活するにあたって質問しにくい内容も、個別で答えてくれました。



参加を決めるとその後に全2回の準備会があります。この期間に予防接種を受けることも可能です。AHIには国際病院が隣接しているので、数名で同時期に受診しました。もちろん事前説明の上、判断します。それからこの期間に一人一人が経験したいことを考える機会や、現地の状況を学んでいきました。事前の調べ学習では各自発表の場を設けられるので、ツアー先の国や地域の理解が深まります。NGO活動についての紹介や現地での行動など、そして参加者同士の話し合い、現地で行動しやすいようにグループ分けもこの時点であり、役割も分担し最終化しました。

■訪問国・地名 スリランカ

■実施期間
2020年3月20(金)～
30日(月)(9泊11日)

■旅行代金(参加費)
204,000円
(中部国際空港発着の場合)

※今年のツアーは新型コロナウイルスの影響により中止しました。



募集人数は20名で内、高校生含む学生10名、一般10名で様々な年齢や職業の方々と共にツアーをします。私の年は職員含め17名で参加。

一方、スリランカでは元研修生たちが所属する4つのNGOが、団体をあげて受け入れの準備を進めています。

「生きる力をつかむ旅」の意味

毎年掲げているこのツアー題目が旅の工夫にあると思います。一軒に一人のホームステイを通して現地の生活を体感しました。日本では考えられない生活スタイルがある一方、出会う人々の温かさや苦勞の話など、感じたことを参加者同士で3回のホームステイの後毎回シェアしました。

スリランカでの訪問では、大規模開発が進む漁村で生活を守る女性リーダー宅、象と人の共生を目指す農村住民の家、高地の紅茶農園で働く労働者のラインルームと3つの地域を訪問し、ホームステイしました。人と出会って現状や課題について考えます。現地NGOの方による活動(元AHI研修生がほとんど)についてお聞きし、質問し、学びました。学校に訪れ子どもたちと交流もしました。先生役になって日本のあいさつ、歌も一緒に歌いました。

インド洋大津波や26年におよんだ内戦終結後、平和を取り戻したばかりのスリランカに昨年は同時多発テロが勃発。

さまざまな試練を得て、人々は今…?



旅を終えて

ツアーの後も旅を共にしたメンバーで集まる機会がありました。アクション会です。帰国後のスリランカの最新事情を確認し、ツアーのふり返り(次年度につなげるため)をし、メインはそれぞれお世話になったホームステイ先へ現地で撮った写真のプレゼントの提出。まとめて現地へ送ってもらいます。その後、旅の文集を作成するため、文集委員会を結成し、体験談を教会やAHIのイベント(オープンハウス)などで発表するための準備をしました。スタディツアーが終わってもボランティア活動などAHIと継続的に関わられます。私は編集長として、皆の原稿をまとめました。ツアーが終わってバラバラになったメンバーと、しばらくつながっていられる気持ちでした。制作中は旅の思い出が時々よみがえり、楽しみつつ、印刷、発行までこぎ着けるのには苦労はありました。しかし、文集に関わったことでメリットは多かったです。完成した文集はオープンハウスなどのイベントで販売しました。売上金はスリランカのNGOへ寄付金となります。一年後には新しいメンバーでまたツアーが始まります。現地の職員からLINEがありました。文集の寄付金を無事届けたとのことでした。授与式の画像とともに。その知らせは、私のなかで今までに味わったことのない感情として込み上げました。おそらく自らの手で社会貢献をしたことの実感です。

参加したことでこう変わった

参加者の声、帰国後に作成した昨年文集より抜粋。

「私は今回のツアーで何気ない毎日を当たり前で過ごすことが幸せであり、かつ今の生活が幸せだと感じる事が大切だと学びました。」

「異文化交流は本当に楽しい!人生にとってとても価値のある経験になること間違いなしです。」

「想定外の体験をし、適応し、受け入れる幅が広がった。」

他にも

- ・お世話になったホストファミリーの人たちに恩返しをしたい。
- ・本気で生きている人たちを見て自分も、もっと必死に生きないと。
- ・出会った人たちから人生、命に対する愛を感じることができた。



職員側の声から、今年のスタディツアー説明会にて。

「今回は2名がボランティアで駆けつけてくれました。一人は高校2年生のSさん、第一印象はおとなしい感じで最初は一人で参加することを躊躇していましたが、帰国後、高校全体での役割を取るなどリーダーシップを発揮していることを自信をもって語っていました。もう一人は大学の教員の方で、AHIのツアーのお勧めポイントとして他のツアーでは経験できないものと、体験を通して話していただきました。二人とも職員の話よりも、ずっと魅力的で説得力のあるものでした。一年経てAHIのツアーの伝統が繋がっていきます。」

40年目に突入するはずだった

参加者も現地の元研修生も一緒になって作り上げていくスタディツアーですが、今年世界的に発生した新型コロナウイルスのため、説明会や準備会を進めていた途中で、下記の判断のもと残念ながらツアーは中止となってしまいました。

AHIからお知らせによると「3月11日スリランカ保健省が国内で初の感染を発表、この事態を受け、11日にスリランカ大統領が国民に向けて感染拡大防止のため協力を要求するというメッセージを発信。その中にグループツアーの中止を要請するという文面も含まれていました。」

その後3月20日、ツアー出発となるはずの日、参加者が集まって解散式を開催したとのこと。現地からのメッセージ、それを受けてのこちらからのメッセージ、今の思いをビデオ通話で中継。お互いに励まし合い、現地の人とつながりを始める力になることを願って。その様子は、中日新聞にも掲載されました。

団体概要

公益財団法人アジア保健研修所 (AHI)

アジアの草の根の人々の健康と生活を守るために活動するNGOワーカーの育成。1980年に始まり、約 6000人の研修生がアジア各地で活動しています。

- ◇研修事業 国際研修(8~10月)/元研修生との協働事業/研修生へのフォローアップ
- ◇国内活動 AHI初めて始めて講座(毎月第4土曜日)/AHI講座(不定期)/スタディツアー(3月)/オープンハウス(10月)/講演会・勉強会(随時)/講師派遣(依頼に応じて)

〒470-0111 愛知県日進市米野木町南山 987-30 Tel:0561-73-1950 Fax:0561-73-1990
E-mail info@ahi-japan.jp http://www.ahi-japan.jp



2018-19年文集

N た ま の い ま

No.41



やました たつや

Nたま15期生 山下達矢さん

名古屋NGOセンターが主催する、将来のNGOスタッフを育成する“次世代のNGOを育てる、コミュニティカレッジ”（通称Nたま）。2002年～2019年度までの17回で（2004年度はお休み）、研修を受けた方は250名。このうち、のべ143名のOB・OGがNGO/NPOスタッフの担い手として羽ばたきました。

約半年間の研修を終えた卒業生たちは、今どこで、どんな活動をしているのでしょうか？第41回はNたま15期生、山下達矢さんにお話を伺いました。

Nたまで広がった視野を活かして

■Nたまへの参加動機を教えてください。

大学のゼミでNPO論を専攻していました。その中で子どもの問題に興味を持ち、海外の子どもの問題にも関心があったのでフィリピンを中心に支援を行う認定NPO法人ICANのスタディツアーに参加しました。その時にNたまの修了生の方と偶然出会い、その人から話を聞く中でNPOの運営について学べることを知り興味を持ちました。

参加したのは大学4年時の就職活動が終わった後です。NPOや社会問題についてもっと知識を深めたいと思い参加することを決めました。

■印象的だった講座はありますか。

主流秩序についての講座です。「主流秩序」とは今の社会で主流となっている価値体系で、マジョリティーの偏差値的に望ましいこと／よくないことが序列付けされたものです。そのためNPOで働く生活スタイルの価値観も主流秩序では下位の方と言えます。しかし本講義で主流秩序に囚われず、自分自身の価値観を大切にすることや多様な価値観の必要性、自分で物事を決める大切さを学び、NPO団体に働くことについて自信を持つことができました。

■もともと子どもの支援に関心があったそうですね。

はい。なので、「子どもの貧困」をテーマにした自主企画は楽しみでした。企画作成のためにチームで児童養護施設やホームレス支援を行う団体、子ども食堂、児童館などの方々からお話を伺いました。その話を元にどんぐりや枯れ葉などの自然のモノを組み合わせて動物を描くワークを企画しました。実施場所は地域の子ども食堂にご協力いただき、食事の後に開催させていただきました。

岐阜県高山市でのフィールドワークも勉強になりました。過疎化が進んだ地域では子どもたちが多様な人と出会う機会が減っていることを知りました。「機会の貧困」と言うそうです。地域の過疎化という問題が子どもの機会の貧困を生み出しているという“社会構造”を知り、子どもの社会問題を知るには地域の問題やもっと他の分野の問題も勉強する必要があると気づきました。

■今の仕事と照らし合わせて。

困っている人を「仕事」の面でサポートしたいと思い、現在は製造工場への人材派遣を行っている会社で働いています。職務上、派遣社員と工場の間に入って労働環境などの調整役に

まわることが多く両者の立場を考える必要があります。Nたまでは、社会問題の原因を考えることを何度もできたおかげで、何かトラブルが起きた時には「そもそもなぜそれが起こってしまったのか」と考え、まず根本原因から考えることを意識しています。

■今後の目標はありますか。

仕事の面では工場で働く社員が困っているときに何が原因かをしっかり考えてよりよいサポートができればいいですね。子どもの社会問題の背景には地域の問題をはじめほかにも様々な分野の社会問題が関係していると思います。なので、今後は社会福祉についてもっと体系的に勉強していけたらと考えています。

(担当:高橋)



Nたま研修で発表する山下さん

皆さんはチャイルドラインをご存じですか？
18歳までの子ども専用の電話、チャットを使った相談窓口です。開設して20年、「子どもは変わりましたか？」と訊かれることがよくありますが、私は「変わりません」と答えます。子どもが変わったのではなく、子どもを取り巻く環境が大きく変わりました。大人が変えてきました。その過程に子どもの意見を聴いてみようという考えはありません。その時々、いつの時代も、子どもは大人の作った社会環境に適応して生きているのです。子どもの問題行動の背景には必ず大人が影響しています。この子は「なぜこんなふうに考えるようになったのか」「なぜこんな行動をしたのか」その背景まで見てほしいと思います。だって問題行動を起こそうと思って生まれてくる赤ちゃんは1人もいないのだから。

現在、コロナウイルスで社会が不安になって

エッセイ
**NGOの
散歩道**
第31回

子どもとともに
社会をつくる

いますが、全国一斉に休校という政府の要請で、まず最初に子どもが行動を制限されました。経済を止めないために「子どもに犠牲になってもらう」と発言する人もいました。子どもは、一人の人間であって大人の都合のいい道具ではありません。国連で定めた『子どもの権利条約』では、「自分に関わることが決定される時は意見を聴かれる権利がある」と書かれています。起きている状況を子どもに理解できるように説明し、どうするといいかを一緒に考えるプロセスを踏むことで、子どもは大切にされていると感じ、自分ごととして問題を考え、少し理不尽なことでも納得して受け止め協力する力を持っています。子どもを社会の一員として位置づけ、気持ちや意見を聴く事ができるかどうか。今、大人の力が試されています。

NPO法人チャイルドラインあいち 専務理事 高橋 弘恵

クレジット決済がさらに利用しやすくなりました

名古屋NGOセンターwebサイトの「ご支援のお願い」ページをリニューアルし、会費や寄付のクレジット決済に、自動で継続支払いが可能な「継続決済」と一度限りでの支払いが可能な「スポット決済」のどちらかをお選び頂くことが可能となりました。賛助会員の更新の手続き、Nたまサポーターのお振込みにご利用ください。銀行振込とゆうちょダイレクト(ネット)による手続きもご案内しております。

詳細はこちらです⇒ <http://nangoc.org/membership/shien.php>

LINEなど、SNSによる情報配信をご利用ください

名古屋NGOセンターは、ホームページのほかに、メールマガジン、Facebookなど、さまざまな形でNGOの情報を発信しています。LINEでも情報配信をはじめました。ぜひ、ご登録いただき、ご活用下さい。

- ・LINE: 右のQRコードまたはLINEで「名古屋NGOセンター」を検索
- ・Facebook、Twitter、Instagram: 「名古屋NGOセンター」を検索
- ・メルマガ: 「名古屋NGOセンター」のHP下部「メールマガジン」からアドレスを登録
- ・ブログ: 「名古屋NGOセンター事務局通信」で検索

LINE公式アカウント



@393rkgrn

LINEの「友だち追加」から、ID検索するかQRをスキャンして登録してください

なんごく りこめんず
NANGOC RECOMMENDS



このコーナーでは皆様からの「りこめんず」を募集しています。NGOに関するあらゆる「おすすめる」情報をおよせください。e-mail:info@nangoc.org
 ※「NANGOC」とはNAgoya NGO Centerの略です。

BOOK 世界の難民を助ける30の方法

滝澤三郎 編著

桑山千香子の
オススメ



合同出版 1,480円+税
2018年

2015年シリア難民という言葉がさまざまなところで飛び交っていました。遠い国の話のように聞こえましたが、高校の先生から「一言で片づけてはいけない。」の言葉を受け、大学では国際関係に関する学問を学んできました。

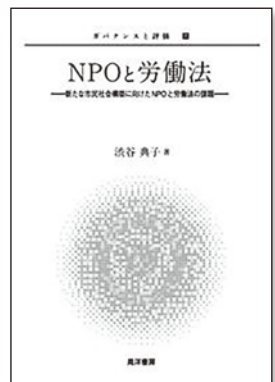
日本の難民申請者は近年、増加傾向にあります。2017年では、約2万人が申請をしましたが、認定された人数はおおよそ20人(2017年時点)。

この数字を聞いて、認定人数も少なく、言葉も知らない人もたくさんいると思います。「難民って?」、「どんな人のことを言うんだろう。」知らない疑問、誤解が錯綜し、必要以上の不安を高めてしまうこともあるかもしれません。この本は、「難民」の定義や現状、「難民」と認定された人々の生活、就労支援、教育支援について書かれています。課題に対して直結しないかもしれませんが、私たちにできることは何か。知ることから始められるこの本をお勧めしたいです。

BOOK NPOと労働法
 -新たな市民社会構築に向けたNPOと労働法の課題-

渋谷典子 著

丹羽輝明の
オススメ



晃洋書房 2,700円+税
2019年

著者の渋谷典子さんは、男女共同参画に取り組んでいる特定非営利活動法人参画プラネットの代表理事。名古屋市男女平等参画推進センターの指定管理者を2006年度から2013年度まで受託し、その間センター長としてNPOで働く人たちの課題を多く見てきました。

そしてNPO活動者が人件費が安く押さえられていること、女性が多いことからケアの担い手としての補助的な労働と位置づけられていること、指定管理事業の場合は理想とする社会の実現よりも施設管理への要求に重点が置かれていることなどの問題点をあげて、新たな市民社会の構築に向けたNPOと労働法の課題を考察しています。

「新しい公共」とNPOとのかかわり、有償ボランティアの課題も興味深く読めました。

DVD ナチュラルウーマン

桜井裕子の
オススメ



DVD 3,800円+税
2018年

美しい女性のアップに惹かれるカバー、思わずうっとりしてしまう。主人公のマリーナはトランスジェンダー(生まれた時に与えられた性別と違う性で生きる)である。恋人は親子ほど歳の離れた男性で、幸せな誕生日を過ごす場面から始まった。しかしその夜、恋人オランダの体調が急に悪くなり、夜中に慌てて病院まで車を走らせた。懸命な対応もままならず、オランダは帰らぬ人になってしまう。絶望的になったマリーナだが、次に待ち受けたのは数々の試練だった。医師が死因を疑い、警察の事情聴取、検事もしつこくやって来る。元妻にも嘆かれ、息子には罵声を浴びさせられ、オランダと過ごした住み家や車、愛犬までも返却を要求される。身心ともに傷ついた中、マリーナのことを理解してくれる人々もいる。仲間と反対されるも葬儀に行くと、何しに来た! 邪魔しにきたかと追い返される。「私にも権利はある!」と主張。何とか乗り入れて火葬直前のオランダと対面し、最後の別れを告げられた。その場面は、家族を思う誰しも共感できる感情だ。残された遺品の鍵。最後にマリーナが探し当てて開けた、暗闇の中で見たものは何だったのだろうか?

その後、自身を強く取り戻し、生きる姿、歌い手として舞台に立つ姿は美しく感動的であった。

私が見たパプアニューギニア ～ピースボートに乗って～

ピースボートって？

ピースボート101回クルーズに乗船しました。ピースボートとは、「国際交流を通して地球の平和をめざす船」。地球一周するコースやアジア地域を中心に回るコースがあります。

今回のコースは以下になります。

香港・シンガポール・スリランカ・エジプト・ギリシャ・ポーランド・スペイン・モロッコ・ポルトガル・アメリカ・ジャンマイカ・コロンビア)・パナマ・イースター島・タヒチ・フィジー・オーストラリア・パプアニューギニア。104日間で20の寄港地をまわりました。

現地の方との交流できるプログラムがたくさんあり、実際に関わりを持ち、お互いのことを理解していくことで紛争を予防しようというのもピースボートの目的の一つ。今回の寄港地でも、コロンビアなどなかなか日本人が行かない国にも訪れました。

私が乗船したクルーズで印象的だった寄港地No.1のパプアニューギニア・ラバウルをピックアップします。

「ミオコ島で交流・文化体験」というツアーに参加しました。そもそもラバウルは観光地として開発されていない地域。私たちの移動車は、工事現場で働いている風貌の女性が担当。道も整備されておらず、移動もアトラクションでした。



移動がアトラクション

町の中心部に近づくと、道は舗装されており、大手企業のロゴが入った建物もいくらかありましたが、山間に小さな集落がある地域がほとんどでした。タイムスリップしたようでした。海外からのお客さんが珍しいのか、バスが通りかかるとみんなで手を振ってくれました。

1時間ほど移動すると海岸に到着…。ここから8人乗りモーターボートに分かれて移動です。

出発直後から水しぶきがかかり、沖合にボートが出ると、頭上から波が降ってきました…。みんな島に着くころにはびちょびちょでした。海は大荒れの区間もありましたが、底まで見えそうなくら



いきれいなところもありました。時にはイルカも現れ、みんな感動…。大ジャンプも見られました。

島につくと最初はかなり警戒心を持たれていました。めったに外部の人がくる島ではないように思われました。最初は子どもたちのダンスで歓迎してくれ、そのあとは学校見学。学校では英語を習っているようで、大人も子どもも話せるようでした。

そのあとは昼食。島でとれた果物や魚を菓っぱのお皿で用意してくれました。ちなみに、お米はシンガポールからの輸入だそうです。

島の子もたちと交流・問われる価値観

最後には交流の時間がありました。慣れてくると大人たちは気さくに話してくれていろいろと質問に答えてくれました。子どもたちは最後までシャイでした。

そこで私にとってびっくりするできごとが…。

《《一緒にきたツアー客の一人が「子ども用のスナック菓子」を配り始めました》》

子どもたちは囁み切って袋を開け、そのビニール片は飛んでいき、喜んでそのお菓子を食べ、食べ終わるとゴミをポイッ。

当然ですよ。ビニールが存在しない島。捨てたら環境に悪いか、そんなことまで考える機会も教わる機会もありません。

私の隣にいた友達は「かわいい、子どもたちほんとにかわいい!!」「いいなあ、私も何かあげたいなあっ!」と。

私は飛んでいったゴミを回収するくらいしかできませんでした。私は添加物たっぷりのお菓子をこの島に持ち込んでほしくないと思いました。まだ便利すぎるプラスチックや添加物などを知らない彼らに…、教えないで、と。

あくまでこれは私の考えです。みなさんはどう考えますか。

このミオコ島。5年、10年経ったらどうなるのだろう。気になって仕方がない、とっても考えさせられる寄港地でした。

(さんぐりあ編集委員 高橋里加子)

政策提言

G20外務大臣会合に向けて提言書を手渡しました

2019年11月22・23日に愛知県名古屋市にてG20外務大臣会合が開かれました。開催前日の11月21日、名古屋NGOセンターは、不戦へのネットワーク、チベット友の会とともに、外務大臣会合が開かれた名古屋観光ホテルで、外務省の担当者に提言書を手渡しました。

世界中で言論や表現の自由が脅かされ民主主義や市民活動の基盤が損なわれている状況を踏まえ、G20政府に対し以下の4点を提言しました。

1. 市民社会スペースの縮小によってSDGsの達成が妨げられる恐れがあることを認識してください。
2. 市民社会スペースを保護し拡大する法制度の整備に力を尽くしてください。同時に、市民社会スペースに対する攻撃に対してこれを容認しない姿勢を示してください。
3. G20外務大臣会合においてSDGsを議論するにあたり、ゴール16を優先課題として扱ってください。
4. 議長国である日本政府は上記3の議論に当たって、市民社会スペースの保護と拡大がゴール16の実現と不可分であることを踏まえ、平和と公正、法の支配、基本的人権の実現をあらゆるSDGs達成の

前提とするよう議論をリードしてください。

名古屋NGOセンター、不戦へのネットワーク、チベット友の会の提言書は<http://nangoc.org/information/g20.php>よりご覧頂けます。



外務省の担当者に提言書を渡す
西井和裕さん(左)

(事務局:村山)

政策提言

JICA地域協議会が開催されました!

第14回中部NGO-JICA中部地域協議会が、2020年1月23日、JICA中部センターのセミナールームを会場に開催されました。NGOから17名、JICAから12名の合計29名が出席しました。

まず、いつもの協議会のように、NGOから「G20外相会合に向けての市民社会の動き」、「NGO-JICA定期協議会(全国)」、「国際協力カレッジ」、「NGO等提案型プログラム終了」を、JICAからは「草の根技術協力事業の応募状況」、「来年度から始まるNGO提案型研修」の状況について共有しました。

最近の大きな変化としては、JICAが技能実習制度などを通して今後外国から来られた方のサポートを支援すると組織の方針としたことがあります。それを受けて、在日外国人の問題でもNGOとJICAの協働関係は進むのではという期待が生まれています。また、日本国内においてSDGsを進めることもJICAでもNGOでも重要視されています。

これらに関連して、討議事項では、「SDGsを意識した、海外と国内を

結ぶ事業例」として、名古屋YWCAから「外国人子ども・家族支援事業」について、また、外国人ヘルプライン東海から「外国人の困り事を通じて地域につながる活動」についての報告があり、それを受けて、意見交換を行いました。

今後、在日外国人の問題およびSDGsの推進について、具体的にNGOとJICAが連携していくかを継続して話し合っていくことになります。



(担当理事:龍田)

活動報告カレンダー 2019年9月1日~2020年2月29日

●ネットワーキング

- ・シーテック クリック募金2019(6~1月)2万クリック達成
- ・中村哲医師を送る会in名古屋(2/8)開催

●コンサルティング

- ・NGO相談(外務省NGO相談員):[9~2月477件]
- ・外務省NGO相談員 出張相談:多文化が共生する県民フェスタ@石川(9/29)、福井国際フェスティバル@福井(10/27)、国際協力カレッジ(12/21)、開発教育・国際理解教育実践報告フォーラム(2/16)
- ・組織基盤強化のための伴走支援(イカオ・アコ)

●情報収集・発信

- ・会報「さんぐりあ」11月号発行(1,000部)・発送(11/9)

情報発信		9~2月
ホームページ	更新回数	53
	ビジット数	166,192
facebook(フォロワー数1,247人)	更新回数	140
メルマガ(登録数271人)	配信回数	40

人財・活動育成

3年間に及ぶ「NGO等提案型研修」 (実践付きファンドレイジング研修)が終了しました

2017年9月～2019年9月の3年度にわたり、中部地域のNGO向け研修を、「NGO等提案型プログラム」(JICA)の制度を活用し、実施しました。

テーマは「ファンドレイジング」。以前実施した加盟団体アンケートにて組織課題の第1位が「ファンドレイジング」(37%)という結果に基づきました。複数年度にわたる研修は初めてで、1年目は全15回の講座を行い、2年目はアクションプランの実行と専門家による伴走、3年目はアクションプランを達成しきれなかった団体への専門家派遣を行いました。

3年間を通じ、中部地域のNGO関係者37名、15団体が参加しました。アンケートでは、参加団体のうち100%が「参加前に比べて、プロジェクトに合ったファンドレイジング方法を計画できている」と回答し、当初立てていた目標を達成することができました。例えば、「研修で出会った専門家に本格的なコンサルテーションをお願いすることになった」「助成金が通過した」「事業収入が向上した」との声が複数の団体から届いています。

多くの講師・専門家と共に、浅野理事、伊藤理事、戸村理事、松浦理事、西口のぞみさん、高野菜さん、事務局インターン・職員の企画メンバーで作り上げた3年間でした。



専門アドバイザーから、事業収入の改善へのアドバイスを受ける参加団体の理事・職員(NPO法人泉京・垂井)
(事務局:坂井)

お世話になりました& これからもよろしくお祈いします!

2017年度から事務局スタッフとしてお世話になってきましたが、2020年3月末をもちまして退職いたします。寂しい!事務局勤務スタートと同時に分かった私の体質、電磁波過敏症。なるべく電磁波を浴びない(体に溜めない)生活を考えると、スマートフォンだけの通勤電車と、長時間パソコンと向き合う事務局のお仕事から、少し距離を置くことにしました。これからは、一賛助会員に戻って、事務局や理事の方々、加盟団体の皆様と関わらせていただけたらと思っています。これからもよろしくお祈いいたします!

ほりかわ えみ
堀川 絵美さん



インターンを終えて

大学時代、ボランティアをする中で、NGOやNPOに携わる人たちの「活動する想い」が知りたいと思いました。名古屋NGOセンターは、世界や地域の課題に対して活動する人たちを支える場所と聞いて、大学4年生最後にインターン。時期も3か月と短く、関わられた方々は少なかつたかもしれませんが、誰かのために、地域のために活動する方々に出会えたことはとても幸せでした。また、私が思い描く思考と共通するものがあり、原点を再認識することができました。ありがとうございました。また遊びに行きます!

くわやま ちかこ
桑山 千香子さん



●政策提言

- ・「NANCIS(市民社会スペースNGOアクションネットワーク)」による「あいちトリエンナーレ2019に対する文化庁の補助金不交付決定への撤回」声明発表
- ・民主主義の危機は世界共通の課題～市民社会スペース縮減の時代からSDGsゴール16達成に向けて～(11/16)開催
- ・G20 外務大臣会合に向けて提言書を手渡す(11/21)
- ・NGO・外務省定期協議会 全体会議&ODA政策協議会&連携推進委員会へ出席(11/28、12/12@東京)
- ・スリランカの漁村から～平和を作り出す人々～(11/29)開催
- ・中部地域NGO・JICA協議会(1/23)開催
- ・NGO・JICA協議会へ出席(9/18@東京)

- ・「SDGsゴール16と国際協力NGO」研究会へ出席(2/10・11@青山学院大学/主催:NANCIS)

●人材・活動育成

- ・「NGOスタッフになりたい人ためのコミュニティ・カレッジ(Nたま)」実施(9/14、21-23、10/12、27、11/2-4、17、12/1、14、1/19、2/1、8)、Nたまサポーター募集
- ・国際協力カレッジ2019(12/21)開催
- ・NGOキャリアセミナー(1/19)開催
- ・東海地域NGO活動助成金の配分先が右の5団体に決定した

団体名	金額(計100万円)
(特活)HIROYA基金	20万円
(特活)チェルノブイリ救援・中部	20万円
セイブ・イラク・チルドレン名古屋	20万円
(特活)泉京・垂井	20万円
外国人ヘルプライン東海	20万円

●運営

- ・理事会(9/14、11/19、2/18)
- ・職員会議(9/24、10/29、11/26、12/24、1/28)
- ・名古屋NGOセンター大忘年会(12/6)開催

アジア車いす交流センター(WAFCA)

WAFCAは車いすと教育で障害者が自立できる社会の実現を目指し、タイ、中国、インドネシアで活動しています。世界人口の約15%は障害者で、その8割は開発途上国で暮らし、1割(約7千万人)が車いすを必要としていると言われていますが、適切な車いすは足りていません。私が2007年にWAFCAに入職して間もない頃、タイのある地方で車いすの贈呈式がありました。10台ほど新品の車いすを贈呈しましたが、重い障がい麻痺が強く、座位が保てずシートからずり落ちてしまう子どもが多くいました。改善策を模索していた2008年、バンコクで第1回アジア太平洋CBR(地域に根差したリハビリテーション)会議が開催され、WHOの「資源が少ない地域で手動車いすを提供するためのガイドライン」の発表がありました。ガイドラインで「適切な車いす」は以下のように定義されています。

- 車いすユーザーのニーズや取り巻く環境条件に合っている
- 安全で耐久性があり、適切な調

整や姿勢保持が加えられている

- 使用する国で手に入り、継続的に手頃な価格でメンテナンス、修理を受けることができる

さらにガイドラインで提唱された車いすを提供する具体的な8つの手順を、WAFCAの活動にも取り入れて試行錯誤を繰り返しました。多様な車いすの調達、専門スタッフの採用、研修会の開催、政府や社会への啓発など、本格的に取り組める体制が少しずつ整ってきたと感じています。



第1回WAFCAグループ会議の参加者(2019年11月、刈谷市)

昨年、団体設立20周年を迎え、タイ、中国、インドネシアから理事、スタッフ、奨学生を日本に招き、記念式典を開催しました。また、初めて4か国の関係者が揃ってグループ会議を開催し、各国の現状や課題を共有した上で、今後も一人ひとりの障害児者に寄り添った車いすサービス提供のモデル作りに継続的に取り組んでいくことを確認しました。

(事務局長 熊澤友紀子)

認定NPO法人 アジア車いす交流センター(WAFCA)

〒448-0834 愛知県刈谷市司町1丁目2番地 ふれあいプラザゆうきそう内
TEL 0566-23-5822 FAX 0566-23-5827
E-mail:wafca@jp.denso.com <http://www.wafca.jp/>

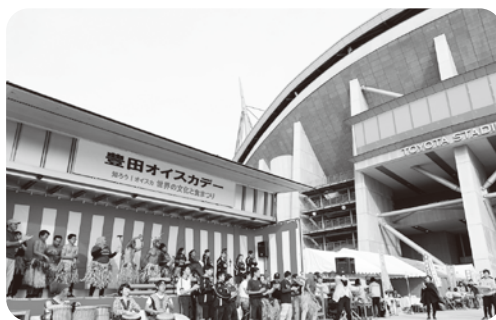
オイスカ中部 日本研修センター

オイスカ中部日本研修センターは、オイスカが海外研修生を受け入れるにあたり、昭和42年に国内最初の研修センターとして設立されました。以来農業研修を中心に、多くの海外青年を招へいし、人づくり研修に取り組んでいます。日本で研修を終えたOB・OGは帰国後地域のリーダーとして活躍をしています。

また近年では、技能実習管理団体として年間を通じ、オイスカ法人会員企業様へ実習生の送り出しをしており、現在50名を超える技能生が在籍しています。

さて、中部センターは半世紀に及ぶ研修活動をしてきましたが、地元の豊田市民にもいまだ認知度が低く、存在が知られていません。活動をより多くの方に知っていただきたいという目的で、オイスカ豊田推進協議会(豊田地区のオイスカ会員組織)の主催により「第1回豊田オイスカデー」を11月24日に開催しました。会場は豊田スタジアムのイベント広場で開催することとなり、会員さんた

ちも想像を超える広さの会場に圧倒され、企画の立案に何度となく小さな会合を重ね、実行委員会は8回を数えました。こうして決まった内容は、世界の料理をテーマにキッチンカーを並べて、各国料理の提供、ステージイベントでは、地元のこども園や高校の吹奏楽、最後にオイスカ研修生・技能実習生によるダンス。スタジアムコンコースでは、積み木広場や木製椅子づくり、東海理化協賛のバルーンアートなど子どもたちに喜ばれる参加型のプログラムを組みました。



豊田スタジアムで行われた「豊田オイスカデー」

当日は、3000名を超える市民の皆様に参加いただき、晴天の素晴らしいお天気の中、終日賑やかなイベントとなりました。会員企業様から協賛金をいただき事業費を賄い、準備から運営まですべて会員を中心とするボランティアの手でおこなわれた一大イベントとなりました。今後もオイスカは会員さん、支援者の皆様と一体となって、事業を推進してまいります。

(所長 小杉裕一郎)

公益財団法人
オイスカ中部日本研修センター

〒470-0328 愛知県豊田市勤八町勤八27-56
TEL: 0565-42-1101 FAX:0565-42-1103
E-mail:chubu@oisca.org HP:<http://oisca-chubu.org/>

(解散しました)

NGO・世界の子どもたちを貧困から守る会

長年お世話になった名古屋NGOセンターを始め、関係団体の皆さんからはNGO Childrenの愛称でも呼ばれてきました。2000年4月に故・廣田善吾さんが1人で立ち上げた団体です。世界各地の貧困、とくに子ども達のために「少しでも何かをしたい」と決意して、始めました。“自分一人にもできる範囲の国際協力を”との思いでコツコツと堅実に、まるで代表者の人柄を体現したかのような団体でした。“できる範囲”だけど、あらゆる関係先に団体情報を載せ、イベントがあれば積極的に参加しPRするなかで、廣田さんの周りには数十人も人が集まって来ました。2005年からは3回に渡って「絵画・作文コンクール」を主催。世界の子ども達の貧困について、日本や海外の子ども達が考え、その熱意に応じてアグネス・チャンさ



絵画・作文コンクールで子どもたちを表彰する
廣田善吾さん

んが審査員を引き受けてくれました。その後、ネパールの孤児院支援から始まったバザーでの資金集め、一人のネパール人留学生との出会い、絵本や一般書を送る活動。またアフリカや中南米など個人でボランティア活動する方との出会い、物資や情報面での支援。

一つひとつの偶然の出会いを大切に、彼らへ真剣に耳を傾けて、自分たちに何ができるかを考えることで生まれてきた活動でした。ところが、2017年1月に廣田さんが急逝。周りの数人でそのできる範囲を受け継いで来ましたが、十分な活動を続けることができず昨年度をもって解散いたしました。廣田さんに代わって、各団体・諸兄のこれまでのご厚情に感謝いたしますと同時に、皆さまのご発展を願っております。
(代表 坂部武志)

会員・寄付者、協力者の紹介 (順不同・敬称略)

2019年9月1日～2020年2月29日

●賛助会員(個人)

【更新】

<賛助会員A>稲葉健吾、園部吉規、久田夏未、尾崎寿光、松本恭一、佐藤都喜子、エヴァンス・オモオモレギエ、細井和世、佐藤玲子、平野木恵、中村裕、加藤信一、谷口千賀子、林滋、福田美津枝、鷺見三恵子、加藤克也、廣井修平、滝栄一、伊佐次歩、石井りか、貝谷京子、三浦哲司、山田哲平、堀川絵美、西井和裕、遠山涼子、夏目亜依、守屋保美、瀬川義人、田口裕晃、関野初理、町上貴也、中島隆宏

<賛助会員B>佐原恵津子、中田健太郎

【新規会員】

梅村紀彦、秋田奈々恵

●賛助会員(団体)

【更新】(株)シーテック

●寄付者(物品なども含みます)

長谷川友子、松浦史典、秋田正己、伊藤武士、宇野菊夫、大島京子、大野博人、水野愛、後藤文昭、酒井俊輝、目加田貴弘、山田志帆、太田貴久、山下賢兒、山崎眞由美、募金箱、加藤信一、中野光恵、戸村京子、坂井敏子、伊藤幸慶、八木巖、森本佳奈、廣井修平、平尾秀夫、羽佐田美千代、田口裕晃、杉本皓子、12/27忘年会参加者、伊沢令子、村山佳江、矢内淳、小久保紀子、ステファニ記念・東ティモール子ども募金、カトウ、山じゅん、アーユス仏教国際協力ネットワーク、真如苑、澤村信弘、東海市民社会ネットワーク、風"s、エビデンスをつかうを学ぶWS参加者、高田信英

【Nたまサポーター】神田すみれ、伊沢令子、中島隆宏、加藤里紗、夏目亜依、レーザークラフトワールド(株)、中尾さゆり、天野友貴、高木雅成、大川元嗣、瀬川義人、高橋美和子、裏見登志子、西川侑里、佐藤遼、佐藤光、河田昌東、田中由衣、吉田拓生、とこい、稲守宏夫、山岸正明、まちづくりスポット、松本恭一、大加千秋、長町諭、佐竹眞明、筒井広治、石川博仁、渡邊真幸、西口のぞみ、木村仁志、河合良太、岩田崇、泉京・垂井、鈴木英司、山田淳一、舟橋由紀、青木研輔、貝谷京子、中部ウォーカーソン、土井幸子、森元裕恵、園部吉規、櫻井美香、匿名

【外貨】西、磯村、フェアビーンズなごや地球ひろば店、ボラみみより情報局、名古屋YWCA、貝谷京子、グローカルなごや、泉京・垂井、寺村眞一、菊地愛結実、大川、吉兼、岡部とよ、石田純哉、ダスティン、石原洋一、木下真由香、ジャンセン、中村紀子、河合智之、しげしげキバコ、ワイズアクト英会話、堀川絵美、山本さな子

●アフィリエイト

アマゾン・ヤフー228円/
楽天4,406ポイント

●会報発送(120号/2019年11月号)

とこい、みゆ、田中英昭、中垣貴裕、岸みゆき、岸はな、熊谷雄一

みなさまのご理解・
ご協力に心より感謝
申し上げます



名古屋NGOセンター正会員(加盟団体)一覧

44の加盟団体が
世界中で活躍しています。

- ・認定NPO法人 アイキャン
- ・認定NPO法人 アジア車いす交流センター (WAFCA)
- ・公益財団法人 アジア保健研修所(AHI)
- ・公益社団法人 アムネスティ・インターナショナル 日本“わや”グループ
- ・認定NPO法人 アーユス仏教国際協力ネットワーク・東海
- ・(特活)イカオ・アコ
- ・認定NPO法人 インド福祉村協会
- ・公益財団法人 オイスカ中部日本研修センター
- ・オヴァ・ママの会
- ・オリーブジャパン国際開発協力協会
- ・GAIAの会
(主活動=名古屋をフェアトレード・タウンにしよう会)
- ・外国人ヘルプライン東海
- ・(特活)キャンヘルプタイランド
- ・国際相互理解を考える会
- ・ココアゴラ Cocoagora
- ・(特活)沙漠緑化ナゴヤ
- ・(特活)東京・垂井
- ・(特活)多文化共生リソースセンター東海
- ・(特活)タランガ・フレンドシップ・グループ
- ・(特活)地域国際活動研究センター(CDIC)
- ・(特活)チェルノブイリ救援・中部
- ・なごや自由学校
- ・公益財団法人 名古屋YWCA
- ・南遊の会
- ・ニカラグアの会
- ・ハンガーゼロ(一般財団法人 日本国際飢餓対策機構)
- ・日本バングラデシュ友好協力会(JBCS)
- ・ハート・フォー・ザ・ワールド・ジャパン
- ・バングラデシュ保育園の会(B.N.S.A)
- ・ピニンブラザーホッド トーカイジャパン
- ・フィリピン人移住者センター(FMC)
- ・不戦へのネットワーク
- ・認定NPO法人 平和のための戦争メモリアルセンター設立準備会 ピースあいち
- ・ペシャワール会名古屋
- ・認定NPO法人 ホープ・インターナショナル 開発機構
- ・(特活)ボラみみより情報局
- ・マゴソスクールを支える会
- ・認定NPO法人 まちづくりスポット
- ・認定NPO法人 ムラのミライ
- ・(特活)ル・スリール・ジャポン
- ・認定NPO法人 レスキューストックヤード
- ・ACF JAPAN アジアこども基金
- ・(特活)DIFAR
- ・(特活)NIED・国際理解教育センター

※(特活)は、特定非営利活動法人の略です。
(2020年4月1日現在)(五十音ABC順)

パネル展

スポーツで叶える



スポーツは国や民族・部族、文化が異なってもともに参加し、ともに楽しむことができるボーダレスなもの。スポーツは、世界で起こっている課題解決にも大きく貢献しています。

2020年、スポーツが持つ力をぜひご覧ください。

写真：南スーダン「国民結束の日」のスポーツ大会

基本展

8/10まで同時開催！

「SDGs -未来につながる17の約束-」



なごや
せ球ひろば



名古屋駅から徒歩13分/名駅ささしま
※現在臨時休館しております。お出かけの際は、HPより開館情報をご確認ください。

事務局だより

今年度の締めくりにあたり、いろいろの皆様を支えられて名古屋NGOセンターがあり活動が継続できるのだと、感謝の念に堪えません。Nたまサポーターなどのご寄付を頂いたお一人お一人のお名前を見ながら、お顔を思い出し近況を話題にしながら、人とのご縁、人脈を大切にしていきたいと改めて感じ入っています。(戸村京子)

編集後記

生まれ育った愛知県を離れ、仕事のため金沢に住むことになりました。せっかく楽しもうと思っていたのに、新型コロナ感染拡大によって自粛に次ぐ自粛…。さんぐりあの編集会議も2回中止になりました。早く事態が収束するのを祈るのみです。そしてまた皆さんが集まるNGOセンターに遊びに行けますように。(加藤里紗)

2020年度の定時総会を開催します。

参加を希望される方は事務局までお問合せ下さい。

- 2020年5月23日(土) 10時~12時
- 会場：名古屋NGOセンター事務所

春の季節が始まり、フェアトレード小物も春の新作が入荷しています！

また、フェアビーンズでは自社製品として、フェアトレードコーヒー、ホットチョコレート、チョコレートなどがあります。どちらもフェアトレード、オーガニック(一部)認証を受けているものですが、一部製品にフェアトレードラベルが付きませんでした。プレゼントや教材などにもご活用ください。ぜひ、店頭にてご確認ください！



フェアトレード雑貨&コーヒービーンズショップ
フェアビーンズ

〒453-0872 名古屋市中村区平池町4-60-7
JICA中部なごや地球ひろば内
OPEN 11:00~18:00
CLOSE 月・水曜日 ※月曜日祝日の場合、翌平日休業
TEL 070-6412-3279
オンラインショップ
<http://fairbeanscoffee.net>

※現在営業時間が変更になっています。詳細はfacebookページにてご確認ください。
facebook: <https://www.facebook.com/fairbeansnagoyachikyuhiroba>

発行：特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター
編集責任者：丹羽輝明

会報編集委員：市川隆之、貝谷京子、加藤里紗、桜井裕子、高橋里加子、内藤裕子、久田夏未、村山佳江

協力者：廣井修平、中垣貴裕、平岩好晴

レイアウト：久由紀枝

発行日：2020年4月17日

印刷：山本印刷有限公司

特定非営利活動法人 名古屋NGOセンター

〒460-0004 名古屋市中区新栄町2丁目3番地 YWCAビル7F
TEL&FAX:052-228-8109 URL:<http://www.nangoc.org>
E-Mail(代表):info@nangoc.org

会費・寄付は以下よりお願いいたします。

①クレジットカード <http://nangoc.org/membership/shien.php>

②郵便振替(口座番号)00860-5-90855(口座名)特定非営利活動法人名古屋NGOセンター